

【E S D 学習支援活動】

奈良市立富雄第三小中学校 第4回ユネスコ委員会 支援報告書

特別支援教育専修 学部3回生 藤井愛華

1. 日時 平成29年7月5日（水）14：30～15：30
2. 場所 奈良市立富雄第三小中学校 第一理科室
3. 参加者 英語教育専修 学部4回生 谷垣徹
特別支援教育専修 学部3回生 藤井愛華
社会科教育専修 学部1回生 仲村幸奈
奈良市立富雄第三小中学校 教員5名
奈良市立富雄第三小中学校 小学部児童17名、中学部生徒21名

4. 内容

- (1) ビオトープについての講義（環境カウンセラー室賀氏より）
- (2) ビオトープの観察

5. 活動支援報告

今回の委員会では、ビオトープについての学びを深めるため、環境カウンセラーの室賀氏にお越しいただいた。この委員会では、“環境”分野の取り組みとして、学内にあるが機能していないビオトープを再生させることを掲げている。今回はその取り組みの初回に当たる。

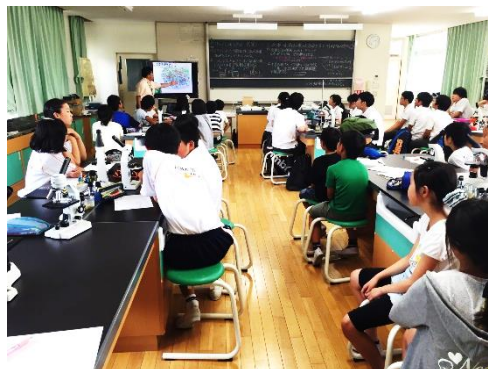
前半の時間でビオトープについての講義をしていただき、ビオトープとは『様々な生き物たちが、一緒に、元気に、生き続けられる場所である』ということを知り、また、それを実現するために、生態系や実現を脅かす外来種の存在について学んだ。後半の時間では全員で実際に校内のビオトープへ移動し、現在のビオトープの課題について考えた。

今回の活動支援について2つの点からまとめる。一つ目は、ビオトープについて学生自身が学んだことについて、二つ目は、子どもたちが取り組む様子から学んだことについてである。

一つ目のビオトープについて学生自身が学んだことについては、『ビオトープは一時的なものでなく、永続的に責任を持って管理していくべきものであること』、『管理内容としては、生態系のなかでそれぞれが役割を全うできる環境を整えることが必要であること』を学び、ビオトープ再生活動のためにすべきことの方向性を掴むことができた。

二つ目の子どもたちが取り組む様子から学んだことについては、子どもたちは大人以上に観察力があり、小さなことに気づける力があるということである。普段通り過ぎていただけのビオトープの中に入って短時間で課題を見つけ、そのためにどうすべきかまで考えることのできる子どもが多かった。学生や教員は子どもの柔軟な発想に乗り、それを深めるうえでサポートすることが重要だと感じた。

今後は今回学んだことを子どもたちが自身が考えた方法で全校に共有してビオトープに注目を集め、2学期以降今回と同じようにビオトープ観察を重ねて考察を深め、具体的な取り組み方を考えていく予定だ。



ビオトープについての講義



ビオトープの観察